



目次

- ◆ブロックからのお知らせ 1
 - 第 45 回日本野鳥の会東北ブロック協議会報告・議事録 1
- ◆事務局からのお知らせなど 4
 - 愛鳥週間の eBird キャンペーンと、関連イベントのご報告 4
 - 図書紹介『メガソーラー及び大規模風力事業と地域との両立を目指して』 5
 - Strix -野外鳥類学論文集- 40号発行のお知らせ

- せ 6
 - 会員数 7
 - 令和 6(2024)年度第 1 回理事会(定例)議事録 9
 - 令和 6(2024)年度第 1 回評議員会(定時)議事録 10

◆ブロックからのお知らせ

■第 45 回日本野鳥の会東北ブロック協議会報告・議事録

- 日 時：2024 年 6 月 15 日(土)～16 日(日)
- 場 所：深浦町アオーネ白神十二湖
- 参加団体：(公益財団法人)日本野鳥の会本部(3 名)
秋田県支部(7 名)、山形県支部(4 名)、宮古支部(3 名)、もりおか(8 名)、北上支部(5 名)、宮城県支部(5 名)、いわき支部(2 名)、青森県支部(8 名)、弘前支部(15 名)
- 参加者：60 名
- 担当支部：弘前支部
- 6 月 15 日・16 日 開会行事・講演等

(1) 開会行事

- ・開会挨拶 弘前支部長 小山信行 氏
- ・来賓祝辞 深浦町長 吉田満 氏
青森県環境エネルギー部自然保護課課長 吉田巧 氏
(代読 自然保護課総括主幹 辻健一郎 氏)
- 日本野鳥の会 会長 上田恵介 氏

(2) 記念講演「弘前藩庁日記に記録された鳥の話～

- 鷹・鶴・雉子・烏・善知鳥」
青森大学客員教授・弘前支部会員 竹内健悟 氏
※要旨は別紙資料

(3) レクチャー1「増えた鳥・減った鳥」

日本野鳥の会 会長 上田恵介 氏

- ・昭和 30 年代の大阪平野

ハクセキレイ(冬鳥)、ヒヨドリ・ムクドリ(漂鳥)、キジバト(山鳩)、カワセミ(農業でほぼ絶滅)、シジュウカラ(いない)、ケリ(水田の普通種)

・1970 年代の状況

タンチョウ・ハクチョウ(給餌で回復傾向)、トキ・コウノトリ(残り十数羽)、シマフクロウ(ほとんど記録なし)、アホウドリ(50 羽くらい)、ガン類(狩猟鳥、渡来は伊豆沼周辺のみ→天然記念物へ)

・今、かれらは? 復活への取組み

アホウドリ:5000 羽を突破。トキ:絶滅、放鳥。
ガンたちの過去:江戸時代にはマガン、ヒシクイ、サカツラガン、シジュウカラガン、ハクガンもたくさんいた。シジュウカラガンは現在復活した。ハクガンも増加。トキ、アホウドリ、タンチョウ、コウノトリ、ガンはとりあえず危機を脱した。

・まだまだ心配な鳥たち

シマフクロウ:国内に 170 羽。天然林の減少と河川環境の改変が原因。生存に必要なのは棲み場所(一つがい 10～15 km²キロの行動圏、営巣木(広葉樹の大径木)。

ライチョウ:2000 羽弱に減少。天敵はイヌワシとオコシヨ、新たにキツネ、テン、カラス、ニホンザル。白山のライチョウの復活プロジェクトでは、乗鞍より卵の入れ替えや家族の移動を行ない、2023 年には 71 羽確認。温暖化による低地植生の高山へ以降が懸念される。

奄美大島(ルリカケス、アマミヤマシギ、オオトラツグミ)、沖縄本島の鳥(ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ホントウアカヒゲ)。原因にマングースなど。

・増えている鳥

漂鳥(ヒヨドリ、ムクドリ)、外来種(ソウシチ

ヨウ、ガビチョウ)、冬鳥→留鳥(ハクセキレイ)、分布拡大(イソヒヨドリ、リュウキュウサンショウクイ、シロハラクイナ)、都市鳥化(コゲラ、メジロ)

・減っている鳥

夏鳥(低山:アカモズ、チゴモズ、アカハラ。里山:ヨタカ、ミソゴイ、サシバ。社寺林:アオバズク)。冬鳥(カシラダカ)。留鳥(イヌワシ、ツバメ、スズメ、セグロセキレイ)。シギ・チ類。サギ類(コサギ、アマサギ、チュウサギ)。

イヌワシとヨタカは伐開地の減少=林業の衰退・山林の放置が原因。

・バードリサーチのまとめから紹介。

・河川・水田環境の鳥や小動物の減少の一因には、ネオニコチノイド系農薬の使用によるミジンコや底生動物の減少があげられる。トキが棲める環境を復活させるためには、日本の農業システムの根本的な見直しが必要。

(4) レクチャー2「eBird を使ってみよう」

日本野鳥の会 自然保護課 岡本裕子 氏

- ・eBird はコーネル大学鳥類学研究室が運営する世界最大の野鳥観察データベース。コーネル大学と日本野鳥の会が共同で運営。
- ・市民科学による野鳥の生息情報の収集活動。
- ・バードウォッチングの魅力の向上、バードウォッチャー増加のツール。
- ・鳥類の分布や個体数の変化の把握し保護に活用する。
- ・投稿はウェブサイトからとモバイルアプリからできる。
- ・Merlin は、AI が識別をサポートするアプリ。
※モバイルアプリからの投稿方法を動画で紹介。資料も配付。

(5) オークションの売り上げ報告 52,000 円(弘前支部とブロックで折半)

(6) 6月16日 十二湖周辺での早朝探鳥会・鳥あわせ結果

オシドリ、カルガモ、カイツブリ、キジバト、アオバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ホトトギス、ツツドリ、ヨタカ、ミサゴ、アカショウビン、カワセミ、ヤマセミ、コゲラ、オオアカゲラ、アカゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、トラツグミ、クロツグミ、キビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ (以上 40 種)

●6月16日 総会議事録

【開会】

- ① 開会宣言:15 支部のうち 9 支部の参加で総会成立を報告。

② 議長選出: 弘前支部 高橋宏明

③ 書記及び議事録署名人選出:

弘前支部 竹内健悟(書記)、松原一男(議事録署名人)

【議事】

①決議・承認事項

第 1 号議案 第 44 回総会会計報告 ※別紙資料 承認

第 2 号議案 次期開催支部の決定 秋田県支部 日程等後日連絡

②提案・協議事項

「最近の気候変動と野鳥の現況」 宮古支部

※提案内容は別紙資料

提案に対する各支部からの情報提供

・青森県支部(関下)

青森県の温暖化関係の会議で毎回述べているのは、イノシシやシカの増加は温暖化とは関係がないということ。江戸時代、南部藩で一日に 800 頭駆除した記録もある。奥羽山脈の木が伐られたこと、その後森が回復したことが動物・鳥の変化に影響したと考えられる。

シメについては、雛は 40 年前前から観察されていて、今も一年中見られている。温暖化と結びつけるのは難しい。上田会長の話にあったとおり、長い目で見ると鳥類は分布を変えるもの。イノシシについても、昔はもっといたのであり、過去と照らし合わせてみるのが大切である。

・宮城県支部(小室)

宮城では、ウグイスの初鳴きは早くなっている。アオバト、オオバン、オシドリは増えている。シロハラクイナについては不明。サシバの渡来は早くなっている。ミサゴは内陸にもいる。ミズナギドリや海鳥は不明。

ジョウビタキは繁殖していない。シメは雛を確認している。

・秋田県支部(佐々木)

オオバンとカムリカイツブリは増加。八郎潟、小友沼の他、横手盆地で増えている。シロハラクイナは 1 例ある。海鳥についてはコアホウドリが客船に保護されたことがあり、アカオネツタイチョウの幼鳥が由利本荘、大仙など 3ヶ所で観察記録がある。

温暖化の影響としては、八郎潟や小友沼がかつてはガンの渡りの中継地だったのが、今では越冬地になっていることがあげられる。ジョウビタキは蔵王で繁殖。シメは親子、幼鳥の群れが確認されていて繁殖している。

・もりおか(嶋田)

ジョウビタキは県民の森など山の低いところで夏に観察されている。

・宮古支部(関川)

サシバの北限は岩手なのか。青森県でサシバが繁殖しているかどうか聞きたい。

・青森県支部(関下)

日本海側としては津軽半島での繁殖例があるが、太平洋側では見られていない。

- ・弘前支部（松原）
繁殖の記録がいくつかあるが、現在は繁殖していない。移動中の個体は見られている。
- ・もりおか（嶋田）
3 月最後の週にサシバがでる。盛岡南部が太平洋側の北限かと思われる。

③各支部活動報告

- ・秋田県支部（加藤）
探鳥会：県内 4 ヶ所で年 48 回実施。月例以外にも 7 ヶ所。計約 600 名参加し、その内 1~1.5 割が非会員。
支部主催の写真展：春と秋に実施。34 点展示。200 名来場。
調査：1 月にカモ、秋にタカの渡り。
会員は 200 名弱。会員のレベルアップの学習会も行なっている。
- ・山形県支部（清野）
風発問題への対応：鶴岡市ではラムサール登録地があることから反対。計画は断念。
会員でないカメラマンのマナー問題：アカショウビンの棲む観光地に集中。
会員の高齢化：次の世代にどうつなぐか。裾野を広げる活動として、公民館や学校での観察会を呼びかけるとともに要望に対応している。
- ・いわき支部（立花）
探鳥会：月に 1 回実施。
猪苗代湖のラムサール条約登録を目指している。
福島県には 7 つの支部があるが、高齢化等のこともあり、統合の可能性も考えている。
- ・宮城県支部（坂野）
支部報：カラー版を出した。色が大事。5 人で分業。若い人たちにつないでいきたい。PDF データでの配信も始めた。
フィールドノート野鳥観察記録を作成：探鳥会の資料として活用する冊子で 500 円。ネット印刷で作成。過去の記録をもとに 166 種掲載。
- ・もりおか（佐賀） 別紙資料
探鳥会：高松定例探鳥会 12 回。GW 探鳥会。岩手大学演習林、区界遠征等
調査活動：ガンカモ、カッコウ、夏鳥・旅鳥初認、オオジシギ、チゴハヤブサ、オオワシ・オジロワシ
普及・広報：写真展、会報、会ブログ
交流行事：東北ブロック協議会、岩手の野鳥を語る会、日本野鳥の会連携団体総会
イヌワシ保護区保全活動。
その他：ホームページを立ち上げた。個々のボランティアの力が大きい。
- ・北上支部（田代）
会費が日本一安い。
観察会：年に 9 回。1~17 名参加。参加数が伸び

ない。

参加者・会員数増加が課題：自然に親しみ、鳥を楽しむ、楽しい会を目指して若い人を引きつけたい。
支部報は年に 4 回発行。連絡ははがきの他ネットも活用。
ハクチョウへの給餌は実施しなくなったが、桜の名所の森でヒマワリの種の給餌を行なっていて、雪が降った日には鳥が集まっている。
企業の社有林の活用について関係機関が連携して相談する予定がある。

- ・宮古支部（関川） 別紙資料
再生エネルギー計画への対応
オオワシ・オジロワシ一斉調査
アオバト調査
 - ・青森県支部（関下）
資料提供：「青森の主な野鳥の鳴き声と聞きなし」。青森県史生物編の「青森県の生物呼称」の冊子とともに、聞き取り調査時に必要な資料である。
活動：青森県支部は、むつ、十和田、三沢、青森、八戸の 5 地区で活動している。各地区ごとの探鳥会、合同探鳥会、カモ・ハクチョウカウントなど。
鳥獣保護区調査：県の依頼で 10 ヶ所担当しているが調査員が少なく高齢化しているのが課題。若い人＝耳が聞こえる人を入れてつなげたい。
カワウ調査：県の内水面漁協、弘前支部、バードリサーチと連携。
風発の問題：八甲田の計画反対に助言。計画は中止。小川原湖、六ヶ所の計画も中断している。
追加の情報：オオジシギは湿原の鳥というより馬の放牧あとにヨタカとともに出現する。
カムリカイツブリは南下しているので温暖化の影響ではなく、勢力拡大と見られる。
 - ・弘前支部（齋藤）
会員：津軽地方で活動している。会員は約 100 名。そのうち県外会員が 4 分の 1 で県内が 4 分の 3。男女比は 7 対 3。平均年齢 66 才。高齢化が進んでいる。
探鳥会：禅林街と弘前公園で月に 2 回実施。元旦探鳥会や、40 年以上続くバードウィークの連続探鳥会も実施している。
調査：カワウ調査、鳥獣保護区調査、オオセッカ調査。
勉強会：月に 1 回実施。
会報：年に 4 回発行。カラー版はメールで配信、郵送用は白黒版。
珍しい鳥の速報をながす連絡網も持っている。
- ④ 本部狩野氏よりお礼の挨拶
- 11 時閉会。
- 議事録署名人 松原一男 ㊞
- 【別紙資料】
- ・記念講演「弘前藩庁日記に記録された鳥の話～鷹・鶴・雉子・鳥・善知鳥」要旨

- ・第 44 回日本野鳥の会東北ブロック協議会総会収支報告書（宮古支部）
- ・「最近の気候変動と野鳥の現況」（宮古支部）
- ・支部報告（もりおか）
- ・支部報告（宮古支部）



（日本野鳥の会弘前支部）

◆事務局からのお知らせなど

■自然保護より

■愛鳥週間の eBird キャンペーンと、関連イベントのご報告

●キャンペーン「愛鳥週間！夏鳥を eBird に投稿しよう」の結果

今年も 5 月 10～16 日の愛鳥週間にキャンペーン「愛鳥週間！夏鳥を eBird に投稿しよう」を実施しました。全国から昨年を上回る 497 名の参加があり、2345 件のチェックリストが投稿されました。

都道府県ごとのチェックリストの投稿数は、一位は昨年と変わらず東京都(495 件)、二位沖縄県(200 件)、三位北海道(195 件)、次いで鹿児島県、神奈川県の間になりました。(表 1)。全国で確認された種は合計 298 種(※)で、昨年の 280 種を上回りました。都道府県別では北海道が 160 種で最も多く、続いて東京都が 127 種、愛知県 98 種の順となりました(表 2)

記録が多かった種は、上位から順にヒヨドリ、ハシブトガラス、スズメ、シジュウカラ、ツバメと昨年と大きな違いはありませんでしたが(表 3)、今回の観察対象種の夏鳥・キビタキが 311 件、オオヨシキリは 211 件報告されました。また、期間中、グローバル・ビッグ・デーにあわせて、5 月 11 日に「東京港野鳥公園ビッグ・デー」を開催したこともあり、キアシシギ(236 件)、チュウシャクシギ(180 件)のような渡りの途中で干潟に立ち寄るシギ・チドリ類も多く報告されました。

※種数は eBird で使用されている分類による。

表 1. 都道府県別投稿数

	都道府県	チェックリスト数
1	東京都	495
2	沖縄県	200
3	北海道	195
4	鹿児島県	185
5	神奈川県	150
6	長野県	144
7	愛知県	92
7	京都府	92
9	千葉県	76
10	埼玉県	68

表 2. 都道府県別種数

	都道府県	種数
1	北海道	160
2	東京都	127
3	愛知県	98
4	長野県	91
5	神奈川県	90
6	栃木県	88
7	千葉県	87
8	山梨県	78
9	沖縄県	77
9	兵庫県	77

表 3. 記録が多かった種

	種名	チェックリスト数
1	ヒヨドリ	1007
2	ハシブトガラス	1001
3	スズメ	894
4	シジュウカラ	832
5	ツバメ	773
6	キジバト	719
7	ムクドリ	666
8	ハシボソガラス	631
9	ウグイス	609
10	メジロ	580

●入賞者について

期間中に投稿された方のうち、観察対象種の夏鳥 3

種(ツバメ、キビタキ、オオヨシキリ)を全て見た方10名に「サントリー特別賞(賞品:サントリーホールディングス株式会社提供の育林材の時計ツバメ)」、7日間毎日チェックリストを投稿した方10名に「日本野鳥の会賞(賞品:日本野鳥の会オリジナルグッズ・アウトドアハット)」をさしあげました。どちらも該当者多数のため、抽選の結果、各10名を当選とさせていただきます。

●グローバル・ビッグ・デー&東京港野鳥公園ビッグ・デーの結果

5月11日(土)は、eBirdを利用する世界一斉野鳥カウント「グローバル・ビッグ・デー」でした。今年で10回目の節目を迎える「グローバル・ビッグ・デー」には、203カ国から63,220人がeBirdに観察記録を投稿し、チェックリストの数は156,000件となりました。観察された鳥の種数は計7,725種でした。日本国内では322人が参加し、昨年を上回る221種が記録されました。

※日本国内で観察された鳥はこちらをご覧ください
https://ebird.org/region/JP?yr=BIGDAY_2024a

この日にあわせて、日本野鳥の会では「東京港野鳥公園ビッグ・デー」を開催しました。80人を超える参加があり、40件のチェックリストが投稿され、観察種数は計40種でした。最も報告が多かったものはチュウシャクシギとキアシシギ(38件)、次いでコチドリとアオサギ(36件)、カルガモとカワウ(35件)の順でした。(表4)



今年のグローバル・ビッグ・デーで、世界中のeBirder(eBirdの利用者)の数は100万人を超え、日本の利用者も7,400人を超えました。次のビッグ・デー(世界一斉野鳥カウント)は、2024年10月12日(土)のオクトーバー・ビッグ・デーです。ぜひ、連携団体の皆さまも、この日にバードウォッチングをしてeBirdに情報を寄せてください。

表4. 東京港野鳥公園ビッグ・デーで記録の多かった種

	種名	チェックリスト数
1	チュウシャクシギ	38
1	キアシシギ	38

3	コチドリ	36
3	アオサギ	36
5	カルガモ	35
5	カワウ	35
7	コサギ	33
7	ハシブトガラス	33
7	ツバメ	33
7	ムクドリ	33
7	スズメ	33

このほか、キャンペーンに先立って4月24日にオンラインセミナー「AIと野鳥識別対決-Merlinに挑戦!春夏編」を実施し、識別クイズ形式で野鳥識別アプリMerlinの使い方をご紹介しました。

自然保護室では、今後も、eBirdの楽しみ方や、さまざまな活用方法をご紹介していきます。eBirdを使われる中で、ご不明な点がありましたら、ebirdjapan@wbsj.orgまでお気軽にお問い合わせください。

【ご連絡先】

自然保護室 担当:葉山/岡本

E-mail: ebirdjapan@wbsj.org

TEL : 03-5436-2633 (月~金 10時~17時)

(自然保護室/岡本 裕子)

■図書紹介『メガソーラー及び大規模風力事業と地域との両立を目指して』

再エネ開発に関わる現在の問題状況と現行法の課題について、日弁連による意見書を取りまとめ、具体的な対応策等について提言している図書『メガソーラー及び大規模風力事業と地域との両立を目指して』が2024年6月10日に信山社から出版、発売されています。

この図書の中には、当会職員が執筆した原稿である「風力発電が鳥類に与える影響とその軽減に必要な施策」も含まれており、現在起きている大規模太陽光発電所(メガソーラー)や風力発電所が抱える地域トラブルや自然保護上の課題、関連する法律や条令、ゾーニングを中心とした課題への対応策、それらの海外事例などについて学べる一冊となっています。太陽光発電や風力発電を巡る自然保護上の課題を抱える連携団体の皆様やこの話題にご興味のある方はぜひ、一度お読みください。

- ・タイトル:『メガソーラー及び大規模風力事業と地域との両立を目指して』
- ・発行日:2024年6月10日
- ・発行者:信山社
- ・編集:日本弁護士連合会公害対策・環境保全委

-----目次-----

第1章 自然エネルギー政策の在り方

- 1 自然エネルギー政策の在り方について〔山下紀明〕
- 2 地域と調和した再生可能エネルギー ― 地域トラブルの規定要因から照射する基本的視点〔茅野恒秀〕

第2章 再生可能エネルギーに関する法制度

- 1 ドイツにおける風車建設地のゾーニング制度〔千葉恒久〕
- 2 メガソーラー及び大規模風力事業と防災関係法令〔山谷澄雄〕
- 3「メガソーラー及び大規模風力発電所の建設に伴う、災害の発生、自然環境と景観破壊及び生活環境への被害を防止するために、法改正等と条例による対応を求める意見書」（2022年11月16日）の解説〔小島智史〕

第3章 メガソーラー及び大規模風力による各地の問題状況

- 1 山梨県における持続可能な地域づくりのための太陽光条例制定とその対応状況について〔長崎幸太郎〕
- 2 メガソーラー及び大規模風力による地域住民とのトラブルの現状〔安藤哲夫・佐々木浄榮〕
- 3 風力発電が鳥類に与える影響とその軽減に必要な施策〔浦達也〕

第4章 パネルディスカッション【地域社会の理解を得た再エネの促進方策はどうあるべきか】

- ◆メガソーラー及び大規模風力が自然環境及び地域に及ぼす影響と対策―再生可能エネルギーと自然環境及び地域の生活環境との両立を目指して

〈パネリスト〉北村喜宣・茅野恒秀・浦達也・小島延夫

〈コーディネーター〉室谷悠子

- 1 メガソーラー、メガ風力が環境に与える影響について
- 2 自然環境の保全と再エネの両立を図るための方策
- 3 再エネ政策の政策形成の問題点―タスクフォースでの議論
- 4 地域における自治体の取組みの現状と課題
- 5 再エネ政策に関する根源的議論の不在
- 6 最後に一言

(自然保護室/浦達也)

■Strix -野外鳥類学論文集- 40号発行のお知らせ

『Strix』（ストリクス、1982年創刊）は、当会が発行する研究誌で、鳥類の生態、繁殖や飛来、行動などの観察記録、総説、自然保護活動の実践例などを掲載する和文誌です。会員であればどなたでも投稿できます。

このたび40号を、上田恵介立教大学名誉教授（編集長、当会会長）、三上かつら氏（副編集長、バードリサーチ）のご協力を得て、発刊しました。

40号は、原著論文5編、短報8編、観察会報告1編を含め14編の新たな論文が掲載されています。千葉県での長期にわたるシギ・チドリ類の個体数変動の記録や、エゾムシクイ、ノビタキのさえずりの研究、九州地方でのアムールムシクイの声による記録、ジョウビタキの3回繁殖やヒバリの高山での繁殖、市街地での水鳥の生態観察やフクロウのペリット分析の結果など、しっかりとした野外観察に基づく充実した内容となっています。ぜひ、この機会にご購入いただき手に取っていただければと思います。



【Strix 40号に掲載された論文一覧】

◆原著論文

- ◎千葉県谷津干潟におけるシギ・チドリ類の個体数変動（桐原政志）
- ◎エゾムシクイのさえずりの分類と録音再生実験で誘発されるソングタイプの変化（石塚徹）
- ◎北海道におけるオオジュリンの繁殖期の分布（藤巻裕蔵）
- ◎非営業期間の浜寺公園プールを利用する水鳥（安部郁夫）
- ◎北海道渡島半島西部の鳥類 2. 草原環境における繁殖期の鳥類相（玉田克巳）

◆短報

- ◎福岡県と長崎県における音声記録に基づいたアムールムシクイ *Phylloscopus tenellipes* 観察記録の集約（黒田治男・渋田朗・岡部海都・林田博・吉谷将史）
- ◎東京都内区部の住宅街緑地におけるウグイスの繁殖事例（岸田宗範）
- ◎伯耆大山山麓におけるジョウビタキ *Phoenicurus aureus* の3回繁殖の記録（楠ゆずは）
- ◎ノビタキのさえずり回数とさえずり個体数の日周変化～長野県の農耕地における一事例～（石塚徹）

- ◎佐渡におけるヤイロチョウ *Pitta nympha* の繁殖可能性について（近藤健一郎・城野大）
- ◎定着初期と思われる乗鞍岳高山帯のヒバリ *Alauda arvensis* について（飯島大智・小林正直・小林篤）
- ◎甲州市菅田天神社のフクロウのペリット内容 - 市街地での1例（高槻成紀・植原彰）
- ◎茨城県・涸沼川におけるツバメのねぐらに混じるコシアカツバメ *Cecropis daurica* の観察記録（嶋村早樹）
- ◆観察会報告
 - ◎頓田貯水池の鳥類相（2017年-2022年）（水谷吉男）

【『Strix』40号のお申込み方法】

□頒布価格 3,300円（本体 3,000円＋税） 送料 370円、10月以降、430円（1冊につき）

□当会ホームページ、メール、ファックスのいずれかよりお申し込みください。

- ・当会ホームページ

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/>

- ・日本野鳥の会 Strix で検索

・E-mail : strix@wbsj.org

・FAX : 03-5436-2635

※バックナンバーも当会ホームページよりご購入いただけます。

<https://www.wbsj.org/activity/conservation/publications/strix/strix-dl/>

【お問い合わせ先】

自然保護室

E-mail : strix@wbsj.org

TEL : 03-5436-2633（月～金 10時～17時）

（自然保護室／山本 裕）

■総務室より

■会員数

7月1日時点の会員数は 33,350 人で、先月と比べ 1 人増加しました。

6月の入会・退会者数（表1）をみますと、入会者数は退会者数より 22 人多くなっています。

6月1日付の入会者数は 188 人で、前年同月の入会者数 184 人と比べ 4 人増加しました。

また、6月末日付の退会者数は 166 人で、前年同月の退会者数 142 人と比べ 24 人増加しました。

なお、会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

表1. 6月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	6 人	8 人
総合会員（おおぞら会員）	44 人	43 人
本部型会員（青い鳥会員）	16 人	29 人
支部型会員（赤い鳥会員）	94 人	51 人
家族会員	28 人	35 人
合計	188 人	166 人
年度累計	686 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

※上記集計は速報値になります。

●都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表2. 都道府県別の会員数（7月1日時点）

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,568 人	2 人
青森県	208 人	1 人
岩手県	332 人	0 人
宮城県	509 人	-5 人
秋田県	234 人	-1 人
山形県	212 人	0 人
福島県	500 人	0 人
茨城県	849 人	4 人
栃木県	816 人	4 人
群馬県	577 人	3 人
埼玉県	1,954 人	2 人
千葉県	1,477 人	4 人
東京都	4,651 人	18 人
神奈川県	3,119 人	-7 人
新潟県	339 人	0 人
富山県	184 人	-1 人
石川県	261 人	-1 人
福井県	224 人	2 人
山梨県	242 人	2 人
長野県	819 人	-3 人
岐阜県	457 人	0 人
静岡県	1,206 人	5 人
愛知県	1,588 人	-1 人
三重県	444 人	0 人
滋賀県	325 人	-1 人
京都府	804 人	1 人
大阪府	1,888 人	-3 人
兵庫県	1,237 人	-6 人
奈良県	467 人	1 人
和歌山県	203 人	-1 人
鳥取県	224 人	0 人
島根県	201 人	1 人
岡山県	535 人	-5 人
広島県	573 人	-2 人
山口県	314 人	-1 人

徳島県	329 人	0 人
香川県	217 人	-1 人
愛媛県	335 人	-4 人
高知県	99 人	-1 人
福岡県	1,157 人	-11 人
佐賀県	216 人	2 人
長崎県	205 人	1 人
熊本県	349 人	0 人
大分県	219 人	0 人
宮崎県	245 人	1 人
鹿児島県	308 人	0 人
沖縄県	82 人	0 人
海外	14 人	1 人
不明	34 人	1 人
全国	33,350 人	1 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表3. 支部別の会員数（7月1日時点）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	236 人	-3 人
根室支部	74 人	0 人
釧路支部	132 人	0 人
十勝支部	193 人	3 人
旭川支部	88 人	1 人
滝川支部	38 人	0 人
道北支部	25 人	0 人
札幌支部	296 人	2 人
小樽支部	51 人	0 人
苫小牧支部	165 人	1 人
室蘭支部	116 人	0 人
道南檜山	70 人	2 人
青森県支部	113 人	0 人
弘前支部	111 人	1 人
秋田県支部	226 人	-1 人
山形県支部	207 人	1 人
宮古支部	70 人	0 人
もりおか	147 人	0 人
北上支部	88 人	0 人
宮城県支部	475 人	-4 人
ふくしま	126 人	0 人
郡山支部	140 人	1 人
白河支部	17 人	0 人
会津支部	53 人	0 人
奥会津連合	6 人	0 人
いわき支部	91 人	0 人
福島県相双支部	13 人	0 人
南相馬	17 人	-1 人
茨城県	759 人	5 人
栃木県支部	819 人	5 人
群馬	519 人	7 人
吾妻	39 人	0 人
埼玉	1,457 人	-7 人
千葉県	906 人	3 人
東京	2,645 人	7 人

奥多摩支部	757 人	5 人
神奈川支部	2,004 人	-3 人
新潟県	263 人	0 人
佐渡支部	37 人	0 人
富山	166 人	0 人
石川	239 人	-1 人
福井県	217 人	1 人
長野支部	385 人	-2 人
軽井沢支部	159 人	0 人
諏訪支部	237 人	-2 人
木曾支部	20 人	0 人
伊那谷支部	71 人	0 人
甲府支部	177 人	2 人
富士山麓支部	51 人	-1 人
東富士	59 人	0 人
沼津支部	132 人	0 人
南富士支部	211 人	-2 人
南伊豆	39 人	0 人
静岡支部	311 人	0 人
遠江	356 人	3 人
愛知県支部	1,224 人	1 人
岐阜	433 人	-2 人
三重	384 人	1 人
奈良支部	398 人	1 人
和歌山県支部	209 人	-1 人
滋賀	321 人	0 人
京都支部	752 人	-1 人
大阪支部	1,739 人	-1 人
ひょうご	946 人	-2 人
鳥取県支部	238 人	1 人
島根県支部	194 人	1 人
岡山県支部	512 人	-5 人
広島県支部	500 人	-2 人
山口県支部	289 人	-2 人
香川県支部	178 人	0 人
徳島県支部	352 人	1 人
高知支部	93 人	0 人
愛媛	312 人	-1 人
北九州支部	231 人	-1 人
福岡支部	522 人	-2 人
筑豊支部	211 人	-2 人
筑後支部	135 人	-2 人
佐賀県支部	279 人	-2 人
長崎県支部	189 人	1 人
熊本県支部	340 人	0 人
大分県支部	204 人	0 人
宮崎県支部	237 人	1 人
かごしま県支部	289 人	3 人
やんばる支部	43 人	0 人
西表支部	51 人	0 人
	28,224 人	8 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。

これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない

い個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

(総務室／三浦 岳志)

■令和6(2024)年度第1回理事会(定例)議事録

- 1 開催日時 令和6年5月23日(木)
午後3時00分～午後5時00分
- 2 開催場所 当財団会議室
東京都品川区西五反田3-9-23
丸和ビル3階
- 3 出席者 理事現在数 8名
出席理事 8名(五十音順)
遠藤 孝一
笠原 逸子
鶴見 みや古
林 光武
葉山 政治
樋口 公平
見田 元
(以下の理事は、Web会議システムでの出席)
狩野 清貴
出席監事
曾我 千文
新實 豊

傍聴
上田 恵介(評議員長)
瀬古 智貴(職員労働組合委員長)

事務局
田尻 浩伸(自然保護室長)
富岡 辰先(普及室長)
古南 幸弘(施設運営支援室長)
柵 さち子(広報室長)
景山 誠(共生推進企画室長)
五十嵐 真(総務室長)
松井 華奈(総務室員)
林山 雅子(総務室員)
- 4 議長 理事長 遠藤 孝一
- 5 議決事項
第1号議案 令和6(2024)年度常勤役員の年間報酬額決定の件
第2号議案 令和5(2023)年度事業報告及び決算(案)承認の件
第3号議案 顧問再任の件
第4号議案 賞罰等評価委員会委員承認の件
- 6 議事の経過の要領及びその結果
葉山政治常務理事が開会を宣言した。続いて、理

事会開催にあたり、冒頭、遠藤孝一理事長から挨拶があった。また、本理事会は、Web会議システム(zoom)を利用し行う旨が述べられ、出席者が一同に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いに行える状態であることが確認された。葉山常務理事より本理事会は定款第42条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨の報告がされた。

また、上田評議員長、及び職員労働組合から1名の傍聴者が出席している旨の報告がされた。

なお、議事録署名人については、定款第44条に基づき、出席した代表理事及び監事となっており、遠藤理事長、狩野清貴副理事長、曾我千文監事及び新實豊監事が署名人となることを確認した後、遠藤理事長が議長となり、議案の審議に入った。

(1) 第1号議案 令和6(2024)年度常勤役員の年間報酬額決定の件

遠藤理事長より、定款第33条及び「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」第3条に基づき、令和6年度の常勤役員の報酬額を資料の通りとする旨、説明がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

(2) 第2号議案 令和5(2023)年度事業報告及び決算(案)承認の件

各室より、令和5年度事業報告(案)について、資料に基づき説明があり、五十嵐総務室長より、令和5年度決算(案)について、会計監査により財務諸表等は適正な処理がなされていると確認されたこと、一般正味財産は約2,579千円の減少、指定正味財産は約82,925千円の増加であること、遺贈及び大口寄付を含め寄付金が好調であったこと、収支相償基準をはじめ財務三基準は達成したことが資料に基づき説明された。引続き、新實監事より、業務監査の結果、業務執行状況及び決算書類等に問題がない旨、資料に基づき監査報告がされた。また、曾我監事より、監事意見として当会が保護活動及び普及活動を継続的に発展させるため、支部・連携団体へのサポート、寄付・会員制度の更なる検討、海洋プラスチックごみ問題の支部・連携団体への展開、指定管理実績の今後の活用について考慮すべきである旨、資料に基づき説明がされた。

葉山常務理事より、資料「増減額の大きな科目」経常費用・事業費・修繕保守料の東京港野鳥公園3,600千円増について質問がされ、古南幸弘施設運営支援室長より、1号及び2号観察小屋外壁補修や東園真砂土舗装補修等の緊急な工事があり修繕保守料の緊急対策費が計上されたと回答がされ、同資料の経常収益・事業収益・受託事業収益の東京港野鳥公園5,800千円増はその緊急対策のためであると説明がされた。

見田元常務理事より、資料「増減額の大きな科目」経常収益・事業収益・物品販売事業収益の卸販売の80,900千円増は80,900千円減が正しく、また、同資料の経常費用・事業費・福利厚生費の増加の理由は人員増によるものかと確認がされ、

五十嵐総務室長より、その通りであると回答がされ、資料の修正依頼がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

(3) 第3号議案 顧問再任の件

遠藤理事長より、株式会社レスポンスアビリティ代表取締役の足立直樹氏を引続き、サステナビリティやネイチャーポジティブ、企業との連携に関するアドバイス等をいただくため、顧問として再任し委嘱したい旨、委嘱期間は2024年9月15日から2026年9月14日である旨、資料に基づき説明がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、全員が異議なくこれを承認した。

(4) 第3号議案 賞罰等評価委員会委員承認の件

遠藤理事長より、賞罰等評価委員会について、社会情勢の変化により賞罰等の対象とすべき行為は多様化しているため、「賞罰等評価委員会設置細則」に基づき、賞罰等評価委員会を発足する旨、また、賞罰等評価委員会委員候補者及び任期について、資料に基づき説明がされた。

葉山常務理事より、「賞罰等評価委員会設置細則」第2条第3項に「任期満了直前の理事会において別段の議決がされなかった場合は、再任されたものとみなす」とあるため、任期を2024年6月1日から2026年5月31日とし、通常5月開催の第1回定例理事会の結果に基づき判断できるようにしてはどうかと意見が出され、遠藤理事長より、任期について意見の通り修正する旨の回答がされた。

審議を経て、議長がこの賛否を諮ったところ、一部修正することを踏まえて全員が異議なくこれを承認した。

7 報告事項

(1) 理事の職務執行状況の件

定款第28条第4項に基づき、遠藤理事長、狩野副理事長、葉山常務理事、見田常務理事より、令和5年9月から令和6年3月までの理事の職務執行状況について、それぞれが担当する案件について、資料に基づき報告がされた。

議長は以上をもって全部の議題を終了した旨を述べ、午後5時00分閉会を宣言し解散した。

上記の議事を明らかにするために議事録を作成し、遠藤理事長、狩野副理事長及び出席監事の名において記名、押印する。

令和6(2024)年5月24日

公益財団法人日本野鳥の会

議長	代表理事	遠藤	孝一
	代表理事	狩野	清貴
	監事	曾我	千文
	監事	新實	豊
			以上

(総務室/林山 雅子)

■令和6(2024)年度第1回評議員会(定時)議事録

1 開催日時 令和6年6月13日(木)
午後4時00分～午後5時40分

2 開催場所 当財団会議室
東京都品川区西五反田3-9-23
丸和ビル3階

3 出席者 評議員総数 9名
出席評議員 9名(敬称略・五十音順)

糸嶺 篤人
上田 恵介
上原 治也
小野 泰洋
河野 博子
佐賀 耕太郎
鷹司 尚武

(以下、2名はWeb会議システムでの出席)

西村 公志
深町 加津枝

出席理事

遠藤 孝一
狩野 清貴
葉山 政治
見田 元

出席監事

曾我 千文

(以下、1名はWeb会議システムでの出席)

新實 豊

事務局

五十嵐 真(総務室長)
松井 華奈(総務室員)
林山 雅子(総務室員)

4 議長 評議員長 上田 恵介

5 議事の経過の要領及びその結果

葉山政治常務理事が開会を宣言、その後、上田恵介評議員長から挨拶があった。また、本評議員会は、Web会議システム(Zoom)を利用し行う旨が述べられ、出席者が一堂に会するのと同様に適時・的確な意見表明が互いにできる状態になっていることが確認された。引き続き、葉山常務理事より、本評議員会は定款第22条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨、報告があった。

議事録署名人については、定款第24条の規定により、出席した評議員長及びその会議において選任された1人となっており、評議員長の他、糸嶺

篤人評議員が選任され、本人も承諾し、直ちに議案の審議に入った。

6 報告事項

(1) 令和5（2023）年度事業報告及び決算の件

遠藤理事長より、令和5年度事業報告について、資料に基づき説明があり、五十嵐真総務室長より、令和5年度決算について、会計監査により財務諸表等は適正な処理がなされていると確認されたこと、一般正味財産は約2,579千円の減少、指定正味財産は約82,925千円の増加であること、遺贈及び大口寄付を含め寄付金が好調であったこと、収支相償基準をはじめ財務三基準は達成したことが資料に基づき説明された。

上原治也評議員より、諸物価高騰の中、このような決算を締めることができたことは高く評価できると感想が述べられた。

上原評議員より、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ来館者について、「開設以来最多となる5,490人（うち外国人1,197人）にタンチョウの魅力や現状、当会の保護活動について伝えた」とあるが、来訪する外国人の傾向、また、来訪方法について質問がされ、葉山常務理事より、これまでは台湾の方が多かったが、欧米からの来訪者が増加している、また、日本人はツアー利用者が多いが、海外からは少人数での来訪が多い、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリを紹介するサイトは英語版も作成しており、個々に情報を収集して来訪しているようであると回答がされ、欧米人にとって雪とタンチョウの組み合わせは魅力的に感じるようであると説明がされた。また、商品の売上額も非常に好調であると追加説明がされた。

西村公志評議員より、根室市春国岱原生野鳥公園の来館者も増加しているのかと質問がされ、葉山常務理事より、コロナ禍で減少した来館者数は増加傾向にはあるが、1995年の開館時の来館者数からは大幅に減少していると回答がされた。

小野泰洋評議員より、バードメイト「ミユビシギ」について、「X（旧 Twitter）の投稿が大きな反響を呼び、これを動機とする寄付が多く集まった」ことについて質問がされ、遠藤理事長より、フォロワー数が多い方が当会の記事をフォローしバードメイト寄付増につながったと説明がされた。上原評議員より、小口寄付増は非常に評価できる、日本野鳥の会の活動への支援者の裾野を広げることにつながっていくと意見が述べられ、遠藤理事長より、共生推進企画室を中心にアイデアを出し合い、広報室が積極的に広報した結果であると説明がされた。

(2) 令和6（2024）年度事業計画及び予算の件

遠藤理事長より、令和6年度事業計画の概要について、資料に基づき説明がされた。引続き、五十嵐総務室長より、令和6年度予算について、経常収益は、豊田市自然観察の森撤退による受託事業収益78,936千円減、通販及び一般卸売上の減少による物品販売事業収益33,240千円減等を含み、901,155千円、経常費用は、職員等給与の定期昇給及び賞与満額を含み、1,000,350千円で、一般

正味財産の部の当期経常増減額は99,265千円減、全体では正味財産が期首に比べ145,429千円減少し、期末残高が2,122,612千円となることが資料に基づき説明された。

上田評議員長より、事業計画のI自然保護事業1.絶滅のおそれのある種の保護に追加されたチュウヒ（原野）の日本で繁殖している個体群について質問がされ、葉山常務理事より、越冬飛来した個体が繁殖している可能性が高く、遺伝的には非常に近いと考えられるが、繁殖場所はヨシ原のある広い湿地である、湿地は世界的に減少傾向にあり、保護を進める必要があると説明がされた。

(3) 令和5（2023）年度第5回・第6回、及び令和6（2024）年度第1回・第2回理事会の結果の件

遠藤理事長より、令和5（2023）年度第5回・第6回、及び令和6（2024）年度第1回・第2回理事会の結果について、資料に基づき報告がされた。

上田評議員長より、令和6年度第1回理事会で議決された賞罰等評価委員会委員承認について、賞罰等の賞はどのようなことを想定しているのかと質問がされ、遠藤理事長より、例えば2014年度物品販売事業において、バードウォッチングブーツを中心に売上を大幅に伸ばした時に理事長賞として表彰したことがある、このように予期せぬほどの業績等があった場合に表彰する、また、役員等の一存で決定できないように外部の評価委員にお願いし公平性が保たれるようにしていると説明がされた。

河野博子評議員より、脱炭素には、化石燃料の使用抑制に加え、森林、草原、海域等による吸収も重要である、2024年度事業計画の中で説明のあった原野を象徴する種のチュウヒの保護を積極的に進めることは脱炭素と切り離すことができない、日本野鳥の会は、野鳥をはじめとする自然保護を進めながら、もう少し視野を広げ、日本が気づいてない全体像を示してはどうか、また、積極的に地域の自然と関わっている支部の活動も引き上げてはどうかと意見が述べられた。遠藤理事長より、当会の活動を通して、社会のあり方を変えていきたいと考えている、それには鳥好きの方だけでなく、多くの方から支援を得られることが必要であり、また、活動を進める我々もそのようなイメージをもって進めることが大切、そのような活動ができてこそ、日本野鳥の会の存在価値があると説明がされた。葉山常務理事より、90周年記念事業の1つである「支部（連携団体）による未来に残したい探鳥地」（2024年7月当会ホームページで公開予定）は、各支部がそれぞれの地域で野鳥の生息地の保全や調査に努めながら、会員や一般の方に向けた探鳥会を実施している場所であり、生物多様性の観点で推薦していただいている、完成したらぜひ見てほしいと紹介がされた。

議長は以上をもって全部の議題を終了した旨を述べ、午後5時40分閉会を宣言し解散した。

以上の議事を明確にするため、この議事録を作成し、

議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

令和6年6月17日

公益財団法人日本野鳥の会定時評議員会
議長 上田 恵介
議事録署名人 糸嶺 篤人
以上

(総務室/林山 雅子)

◆支部ネット担当より

いつも支部ネット通信をご愛読いただきありがとうございます。

支部ネット通信では、支部やブロックから全国の支部・ブロックへ発信したい情報をご投稿いただいて掲載することができます。投稿にあたって特に字数の制限などは設けていません。できるだけ弾力的に対応させていただきます。原稿は毎月5日頃が締め切りで、25日頃に発行となります。ご投稿は下記アドレスまでどうぞ。

また、紙版の支部報の「とりまとめ便」を7月9日に発送いたしました。財団事務局にて、全国各地の支部報をとりまとめて各支部あてにお送りしているもので、支部間の情報交換のために行っています。どうぞご活用ください。次回の発送は2025年2月の予定です。とりまとめ便での発送をご希望の場合は以下の要領で財団事務局あてにお送りください。

*送付対象：全支部（事前に「送付不要」のご連絡を頂いている支部を除きます）

*必要部数：約80部（これより少なくても大丈夫ですが、40部程度以上お送りいただけますと幸いです。なお少なくお送りいただいた場合は、財団事務局にて適宜調整させていただきます）

*送付頻度：1年に数回程度

これからが夏本番。暑さに気を付けてお元気にお過ごしください。次号もどうぞよろしく願いいたします。

日本野鳥の会

支部ネット通信

2024年7月号・通巻270号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2024年7月26日

◆担当

総務室 総務管理グループ

五十嵐真/林山雅子/松井華奈/萩原洋平/原元奈津子
〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org